

学術業績を残す。そして次のステップへ

◎増田 詩織<sup>1)</sup>、上碓 俊法<sup>1)</sup>  
近畿大学医学部附属病院 中央臨床検査部<sup>1)</sup>

#### 【はじめに】

博士の学位は、学術研究の指導的立場に立つ人材の育成や国際機関等への人材供給を行う上で大きな意義を持つ。

学位取得を目指すには、学術業績を残すことが大切である。また進学、就職や転職、認定資格の取得、学会活動（理事・評議員など）、講演（学会や教育機関）の依頼等で、履歴書や学術業績リストの提出が求められる。すなわち学術業績は、何かのチャンスに出会ったとき、また次のステップへ挑戦するときに必要な。検査技師としての活躍を目指す上で、学術業績で評価される機会は今後も増え続けるであろう。

履歴書や学術業績には、職歴、著書、論文、学会発表、講演、資格、賞罰等を記載する。学術業績は、質や数で評価され、日々の学術的な取り組みが大切である。今回は若い技師を対象に学術業績を残すための学会発表や論文投稿について経験談と注意すべき点を述べる。

#### 【学術業績を残すために】

①学会を探す・選ぶ。②学会に入会する・参加する。③研究テーマ（課題）を見つける。文献検索する。④研究・調査の計画を立てる。⑤申請・許可（臨床研究に関わる倫理・動物実験取扱い・遺伝子操作取扱い・個人情報取扱い等）の承認を受ける。⑥結果を集計する。報告資料を作る。⑦抄録を作成する。演題登録する。学会発表する。⑧論文投稿する（査読・論文修正・再提出）。

#### 【結語】

学術業績を残すためには、学会に入会し、学会誌を読み、学会に参加することから始まる。また学会発表と論文投稿を行うためには、すぐ行動する・人の助言を聞く・結果に責任を持つことが大切である。やる気と本気と元気が、あなたの学術活動を左右する。学術業績が残れば、次のステップの扉が

開く。

#### 【参考文献】

- 1) 増田詩織：検査から研究へ．臨床病理．56巻10号．906-914．2008
- 2) 増田詩織：検査室でつけたもの．医療と検査機器・試薬．31巻6号．622-625．2008